

保存の歩み



大正14年ごろの整備事業の様子（写真：小島宏司氏所蔵）

保存池と護岸遺構

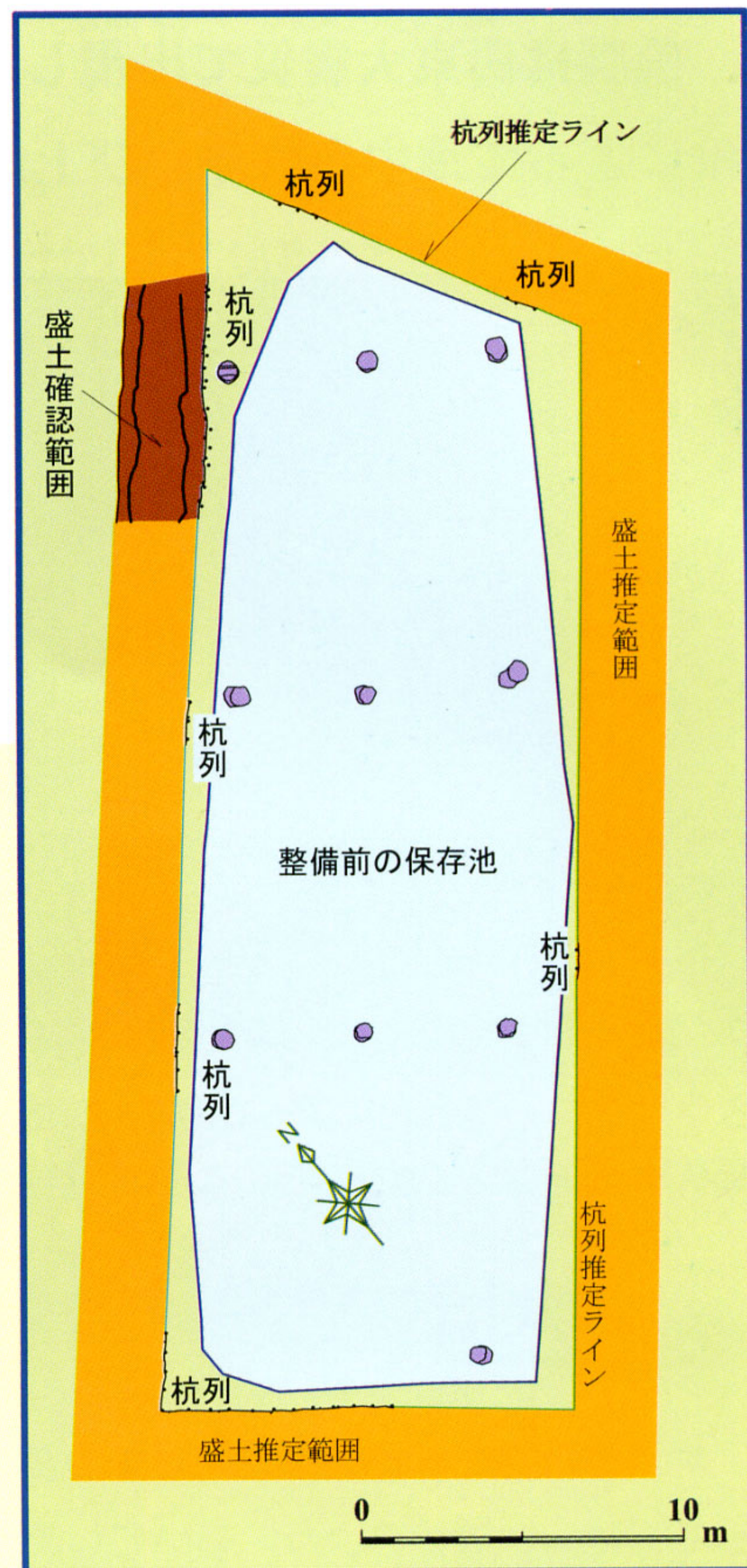
橋脚は、史跡指定後に整備された池で保存されてきましたが、調査において当時の池の護岸遺構が発見されました。杭と板を合わせた土留めと幅約1m90cm、高さ約50cmの土盛りによる堤が確認され、水田だったこの場所に^{ごがんいこう}いねいに保存池を作ったことが明らかになりました。



確認された大正期保存池の護岸【東から】



完成まもない大正期保存池【東から】（写真：「緑萌える日々」より掲載）



大正期の保存池推定図

地域に守られてきた史跡

その後も、^{しもまちや}下町屋の青年団を中心に、^{せいねんだん}防腐剤を塗るなどの作業が続けられたと伝えられています。

さらに、昭和40(1965)年には^{りんせつち}隣接地を所有していた^{むとうこうぎょう}武藤工業が中心となって保存池の改修を行うなど、本史跡は地域の人々に守られながら今日まで保存されてきました。調査ではこうした足跡を^{そくせき}確認することができました。



昭和40年改修された保存池【北東から】